

第3章 漢語・和語と比較した外来語に対する意識

田中 牧郎

1 はじめに

「外来語」言い換え提案では、分かりにくい外来語を分かりやすくする具体的な工夫として、個別の外来語を取り上げて、言い換えや説明の方法を提案している。このうち、分かりにくい外来語を一語で言い換えることのできる端的な「言い換え語」を提案するためには、分かりやすい漢語や和語を探し、時には造語を試みている。提案した言い換え語の多くは分かりやすいと評価されているが、なかには、かえって分かりにくいのではないかと、批判されているものもある。

「外来語に関する意識調査」(平成15年調査)、同Ⅱ(平成16年調査)のなかには、外来語と言い換え語の分かりやすさの意識を調べる項目や、ほぼ同じ意味を持つ外来語と漢語・和語とが共存している場合の使い分けの意識を調べる項目を、いくつか用意した。ここでは、その調査結果を紹介し、若干の考察を加えたい。

2 外来語と言い換え語の分かりやすさ

「外来語」言い換え提案で取り上げた外来語とその言い換え語から7組を取り上げ、次のような質問文で調査を行った。

問：国立国語研究所の「外来語」言い換え提案では、次のような「言い換え語」を提案しています。あなたは、「言い換え語」と、もとの外来語とではどちらが分かりやすいと思いますか。

- インフォームドコンセント／納得診療
- グローバル／地球規模
- デイサービス／日帰り介護
- アウトソーシング／外部委託
- キャッチアップ／追い上げ
- バーチャル／仮想
- ポジティブ／積極的

その結果は、図1の通りである。数値の出方から、7組の語は次の三つの群に分けることができる。

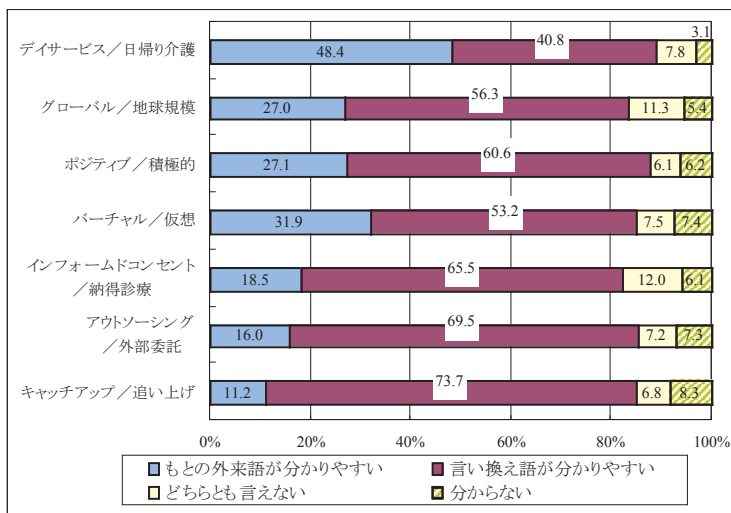


図1 外来語と言い換え語の分かりやすさ

1群：「もとの外来語が分かりやすい」とする人がやや多いが、「言い換え語が分かりやすい」とする人と、あまり差がない。

デイサービス／日帰り介護

2群：「言い換え語が分かりやすい」とする人が多いが、「もとの外来語が分かりやすい」とする人も3割前後いる。

グローバル／地球規模、
ポジティブ／積極的、
バーチャル／仮想

3群：「言い換え語が分かりやすい」とする人が圧倒的に多く、「も

との外来語が分かりやすい」とする人は、2割に満たない。

インフォームドコンセント／納得診療、アウトソーシング／外部委託、
キャッチアップ／追い上げ

このように、語の組によって分かりやすさの意識が違うのは、何に起因しているのだろうか。

3 分かりやすさと定着度との対応

外来語と言い換え語の分かりやすさの意識が、語の組ごとに大きく異なる理由としてまず考えられるのが、外来語の定着度の違いである。第1章に記した、外来語の定着度調査の結果から、上記の七つの外来語について、国民全体の「理解率」を棒グラフで示すと、図2のようになる。

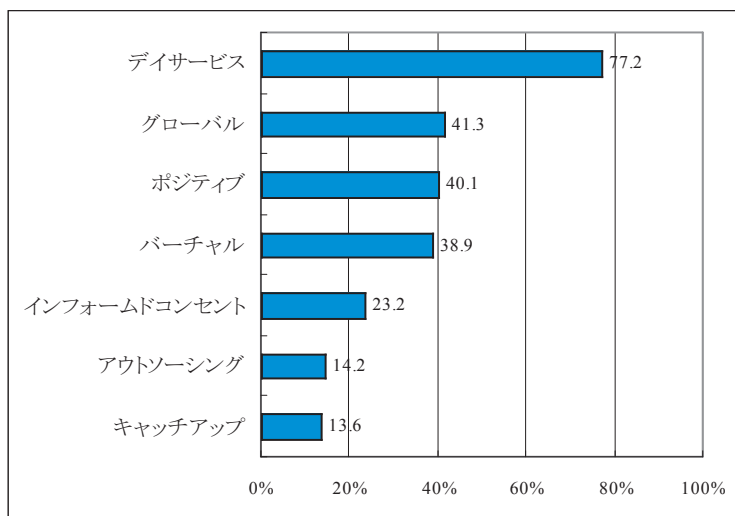


図2 外来語の理解率

この図についても、理解率の数値から、次の3群に分けることができる。

A群：理解率が75%以上である。

デイサービス

B群：理解率が40%前後である。

グローバル、ポジティブ、
バーチャル

C群：理解率が25%以下である。

インフォームドコンセント、
アウトソーシング、
キャッチアップ

このA・B・Cの三つの群の語は、それぞれ、先に見た1・2・3の三つの群の語と、すべて一致する。すなわち、外

来語の定着度の最も低いC群の語は、もとの外来語を分かりやすいと感じる人の比率が最も低い3群の語と一致し、外来語の定着度のもっとも高いA群が、もとの外来語を分かりやすく感じる人の比率がもっとも高い1群の語と一致し、その中間にあるB群と2群とも一致する、という対応があるのである。外来語の分かりやすさの意識と外来語の定着度とは、相関する。

ちなみに、B群・C群の外来語の理解率の低い語の組については、「言い換え語が分かりやすい」とする人が大多数を占める。「外来語」言い換え提案が主たる対象にした、定着度の低い外来語に対する言い換え語の分かりやすさは、おおむね支持されている。理解率が75%を越え、十分に定着しているA群の「デイサービス／日帰り介護」のみは、「もとの外来語の方が分かりやすい」とする人が多い。しかし、この場合も、言い換え語の「日帰り介護」の方が分かりやすいとする人も4割いる。十分に定着している外来語であっても、「分かりやすさ」という点では、和語や漢語の方が選ばれる場合も多いのである。

ところで、図1と図2を詳細に対照すると、数値の出方にずれがあることにも、気付く。まず、2群・B群の三つの外来語「グローバル」「ポジティブ」「バーチャル」は、図2によれば理解率はほぼ等しいが、図1の外来語と言い換え語のどちらが分かりやすいかの意識には、語の組によってやや差がある。この意識の差は、言い換え語の方の事情に起因しているのではないかと考えられよう。言い換え語の方が分かりやすいとする人の比率は、「積極的」「地球規模」「仮想」の順に高いが、この順に分かりやすく感じるという意識が反映しているのではないかと推測される。

次に、3群・C群の三つの外来語「インフォームドコンセント」「アウトソーシング」「キャッチアップ」について見てみよう。図2によると、「アウトソーシング」と「キャッチアップ」とは理解率がほぼ等しいが、図1では、「もとの外来語の方が分かりやすい」と回答した人の比率に、かなりの差がある。この差も、

言い換え語の分かりやすさの意識の差が反映したものではないかと推測される。「外部委託」は、漢語を複合させた四字漢語であり、「追い上げ」は、和語を組み合わせた複合動詞である。「外部委託」はより分かりにくく、「追い上げ」はより分かりやすいという意識の差があるのではないだろうか。

言い換え語の分かりにくさ・分かりやすさについて検証するためには、漢語や和語についても、例えば、外来語の場合と同様の定着度の調査を行うなど、何らかの調査によってデータを取得して分析することが必要であろう。このことは、今後の課題である。

4 新しさ, 使いたさ, 分かりやすさ —「キャンセル」「ハッピー」を例に—

4.1 調査の観点

外来語と、その言い換え語である漢語や和語に対する意識については、分かりやすさ以外にも、重要な要素がある。それら別の要素と比較することで、分かりやすさについての考察も深めることができるだろう。

この観点から、外来語・漢語・和語の三つが、ほぼ同義で使われている語の組、「キャンセル／解約／取り消し」と「ハッピー／幸福／幸せ」とを記したカードを用いて、下に示すような質問を行った。なお、「外来語定着度調査」に基づく国民全体の「理解率」は、「キャンセル」88.7%、「ハッピー」86.8%で、ほぼ同水準であり、いずれも日本語に定着した外来語である。

問：日本語では、同じことを言うのに、いろいろな表現があります。このカードをご覧ください。

- (1) まず、あなたがもっとも使いたいと思う表現を、この中から1つ選んでください。
- (2) 次に、あなたが、もっとも新しいと感じる表現を1つ選んでください。
- (3) それでは、もっとも分かりやすいと思う表現はどれですか。

結果をまとめたのが、図3・図4である。

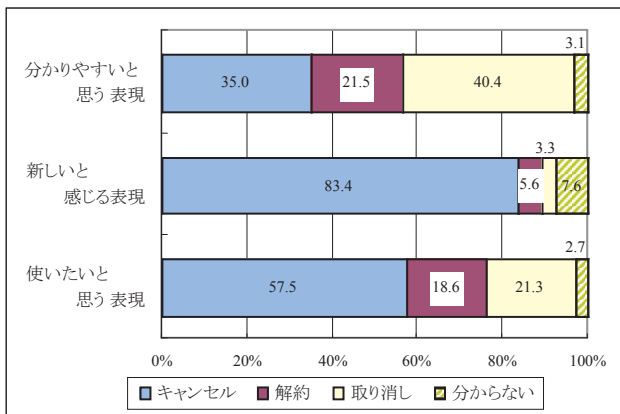


図3 キャンセル／解約／取り消し

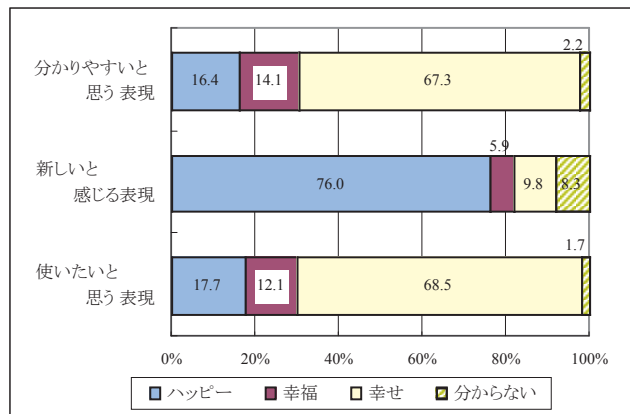


図4 ハッピー／幸福／幸せ

4.2 新しいと感じる表現

「新しいと感じる表現」には、「キャンセル／解約／取り消し」(図3)も、「ハッピー／幸福／幸せ」(図4)もどちらの組でも、「キャンセル」「ハッピー」の外来語を選ぶ人が、圧倒的に多い。「ハッピー」よりも「キャンセル」の方が若干数値が高いという違いもある。このことについては後述する。

図5・6は、「新しいと感じる表現」に外来語を選んだ人の比率を年齢別にまとめたものである。新しさを感じる人の比率は、年齢による差異がほとんどないことが分かる。外来語を新しいと感じる意識は、語による違いや、年齢による違いの少ない、一般に広く共有されている意識であることが確かめられる。

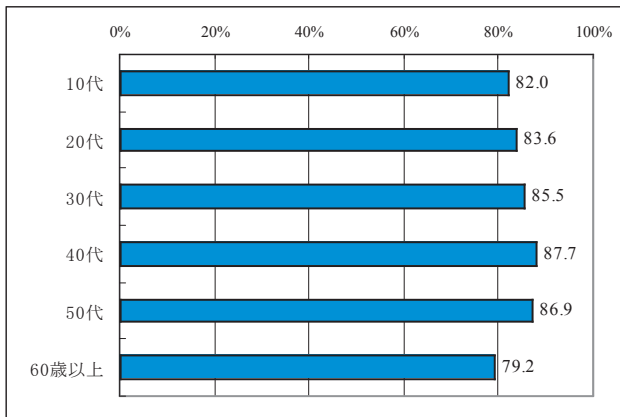


図5 「新しいと感じる表現」に「キャンセル」を回答した人の比率（年齢別）

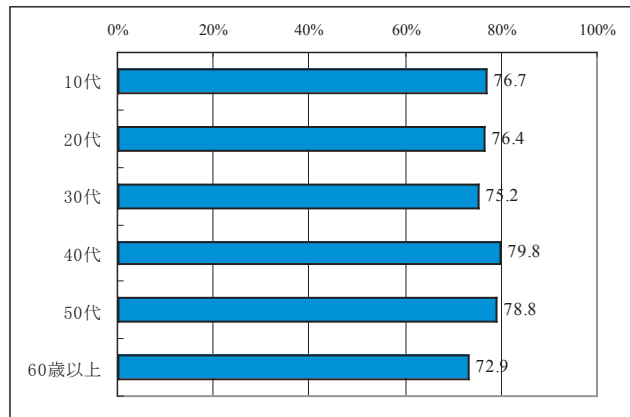


図6 「新しいと感じる表現」に「ハッピー」を回答した人の比率（年齢別）

4.3 使いたいと思う表現

次に、「使いたいと思う表現」に着目したい。「キャンセル／解約／取り消し」（図3）では、「キャンセル」を選ぶ人が6割近くを占める。一方、「ハッピー／幸福／幸せ」（図4）では、「幸せ」を選ぶ人が7割近くを占め、「ハッピー」を選ぶ人は2割に満たない。二つの組で、どの語種を選ぶかの結果が大きく異なっており、使いたいと思うかどうかという意識は、語種が何であるかということとは別のところに、理由を求める必要があるだろう。

「使いたいと思う表現」に外来語を選んだ人について、少し詳しく見てみよう。図7、図8は、「使いたいと思う表現」に「キャンセル」「ハッピー」を選んだ人の比率を年齢層別に示したものである。

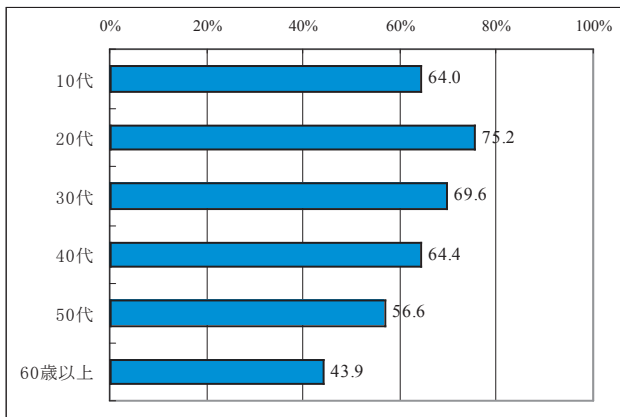


図7 「使いたいと思う表現」に「キャンセル」を回答した人の比率（年齢別）

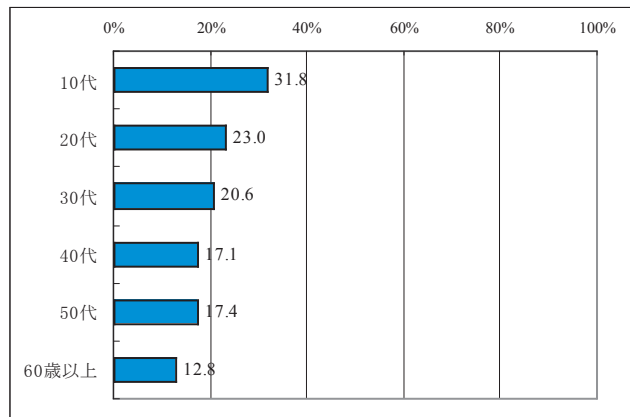


図8 「使いたいと思う表現」に「ハッピー」を回答した人の比率（年齢別）

どちらの組にも共通する点として、若い年齢層ほど高く、年配の年齢層ほど低い、ということが挙げられる。先に見た「新しいと感じる表現」に外来語を選ぶ人の比率には、年齢差は見られなかったのに対し、「使いたいと思う表現」に外来語を選ぶ人の比率には、年齢差が認められるのである。外来語の持つ新しさという性質には、どの年齢層の人も同じような意識を持っているが、外来語を使いたいという欲求は、年齢層によって段階的な差異があるのである。

一方、図7と図8を見比べると、次のような相違も見られる。「キャンセル」を選ぶ人の比率（図7）は、20歳代が最も高いのに対して、「ハッピー」を選ぶ人の比率（図8）は、10歳代が最も高い。この違いはおそらく、「キャンセル／解約／取り消し」の語が表す概念と、「ハッピー／幸福／幸せ」のそれとの、年齢層別の馴染みの度合いの違いによるものであろう。「キャンセル／解約／取り消し」は社会活動の中で必要となる概念で、成人してから馴染みが深くなるであろう。実際に、「外来語定着度調査」における「キャン

セル」の理解率は、10歳代は89.2%、20歳代は96.5%であり、10歳代への浸透は20歳代に比較して低い。一方、「ハッピー／幸福／幸せ」は日常的な生活場面での感覚や感情を表す概念であり、未成年にも馴染みの深い概念であろう。「ハッピー」の理解率は、10歳代は92.5%、20歳代は93.6%であり、差はほとんどない。この現象の解釈として、例えば、20歳代以上では、「キャンセル／解約／取り消し」という、相手に負担をかける行為に自ら言及する機会が増え、「キャンセル」という外来語の持つ、婉曲に言う価値が好まれやすいということがあるかもしれない。また、感受性の鋭敏な10歳代にとって「ハッピー」という外来語の持つ感覚・感情的な価値が、好まれやすいということもあるのかもしれない。しかし、こうしたことを深く考察するには、今回の調査データだけでは不十分である。

4.4 分かりやすいと思う表現

それでは、「分かりやすいと思う表現」についてはどうであろうか。「キャンセル／解約／取り消し」(図3)では、「取り消し」を選ぶ人が最も多く、小差で「キャンセル」が続く。一方、「ハッピー／幸福／幸せ」(図4)では、「幸せ」を選ぶ人が圧倒的に多く、7割近くを占める。分かりやすいと思う表現に、和語を挙げる人が多い点は、ふたつの組に共通している。しかし、外来語については、分かりやすいと感じる人も多い「キャンセル」と、分かりやすいと感じる人がきわめて少ない「ハッピー」との間に、大きな差がある。「使いたいと思う表現」に選ぶ人が多かった「キャンセル」は、「分かりやすいと思う表現」に選ぶ人も多いという対応がある。

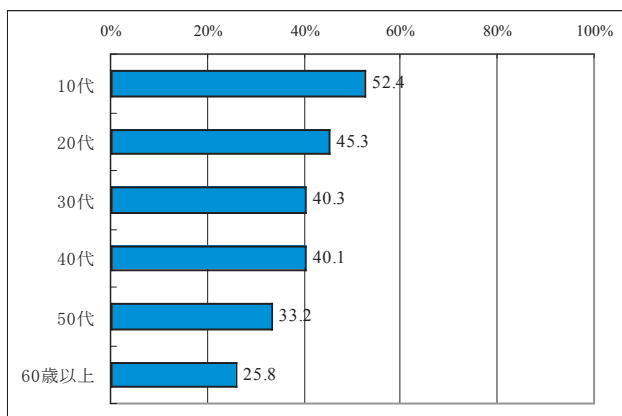


図9 「分かりやすいと思う表現」に「キャンセル」を回答した人の比率 (年齢別)

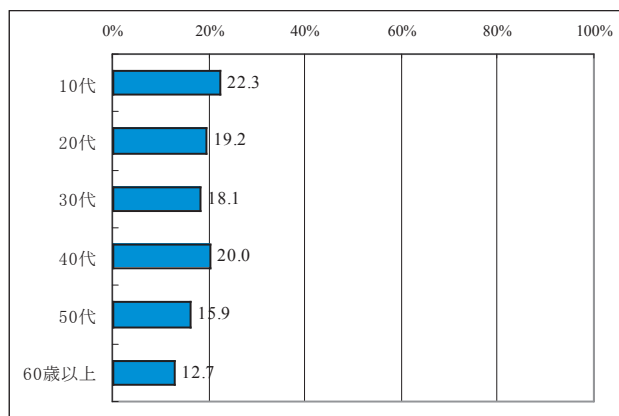


図10 「分かりやすいと思う表現」に「ハッピー」を回答した人の比率 (年齢別)

図9、図10は、「分かりやすいと思う表現」に外来語を選んだ人の比率を年齢別に示したものである。「使いたいと思う表現」の場合(図7、図8)と比較すると、「キャンセル」の方で、全体に数値が低くなっているものの、年齢層別の分布の形は、よく似ている。図7、図8には見られた10歳代と20歳代との逆転現象もない。年齢層による段階的な差異は、「新しいと感じる」「使いたいと感じる」意識に比べて、「分かりやすいと思う」意識において、最もなめらかに現れていると見ることができよう。

ところで、図3と図4とで、外来語の部分と比較すると、次のことにも気付く。「ハッピー」の場合(図4)は、「分かりやすいと思う表現」に選んだ人の比率と、「使いたいと思う表現」に選んだ人の比率とがほぼ同程度であるのに対して、「キャンセル」の場合は、「分かりやすいと思う」を選んだ人の比率に比べて、「使いたいと思う」を選んだ人の比率が、かなり高いのである。使いたさを感じる人の比率が分かりやすさを感じる人の比率を大きく上回る「キャンセル」は、理解しやすさよりも使用しやすさが優先される語だと見ることができよう。このような語は実際によく使われるのではないだろうか。

4.5 新聞における使用実態

ここまで見てきた、語の選択意識を、実際の語の使用実態と、突き合わせて考えたい。「CD-毎日新聞」(日外アソシエーツ)の2003年分を対象として、「キャンセル」「解約」「取り消し」と「ハッピー」「幸福」

「幸せ」の使用回数を数え、それぞれの組の中での比率を算出すると、表1、表2のようになる。「取り消し」には、「取消」「取消し」と表記されたもの、動詞として用いられたものも、算入している。

表1 新聞記事における使用頻度
(キャンセル/解約/取り消し)

	件数	比率
キャンセル	225	16.7%
解約	303	22.5%
取り消し	819	60.8%
計	1347	100.0%

表2 新聞記事における使用頻度
(ハッピー/幸福/幸せ)

	件数	比率
ハッピー	147	9.8%
幸福	264	17.6%
幸せ	1086	72.5%
計	1497	99.9%

「キャンセル」の方が「ハッピー」よりも比率が高く、よく使われていることが見て取れる。実際に用例を観察すると、「キャンセル」が一般用語として普通に用いられているのに対して、「ハッピー」の場合、「ハッピーバースデー」「ハッピーエンド」など特定の複合語、「ハッピーパス」「ハッピールック」など競走馬の名前、「ハッピーライフ」のような作品名、「ハッピー子育て」というコラムの名前など、特殊な用法がきわめて多く、一般語の「ハッピー」が単独で用いられた例は30例余り、全体の2～3%に過ぎない。一般語としては、「キャンセル」がよく使われるのに対して、「ハッピー」はめったに使われない、という相違が明らかである。

分かりやすさ、使いたさが意識されることの多い「キャンセル」は、新聞などでも普通によく使われ、分かりやすさ、使いたさが意識されることの少ない「ハッピー」は、新聞などでも普通はあまり使われないということが確かめられる。

4.6 まとめ

「キャンセル」「ハッピー」の調査データをもとに述べてきたことをまとめると、次のようになる。

- 外来語を新しいと感じる意識は、「キャンセル」「ハッピー」に共通し、年齢による意識の違いもない。この意識は、語や年齢の違いに左右されにくいものであると考えられる。
- 使いたい、分かりやすいと思う意識は、「キャンセル」では強いが、「ハッピー」では弱い。これらの意識は、語による差異が大きいと考えられる。
- 使いたい、分かりやすいと思う意識は、「キャンセル」「ハッピー」ともに、低い年齢層ほど強く持っている。
- 分かりやすいと思う意識と、使いたいと思う意識とを比較すると、「ハッピー」では両者がほぼ同等であるが、「キャンセル」では、使いたいと思う意識の方が相当に高い。「キャンセル」は、使われやすい性格を備えていると考えられる。
- 新聞の使用実態を調査すると、「ハッピー」は特別な価値を持たせて使われているが、「キャンセル」は、普通によく使われている。外来語の使用実態は、使用意識を反映していると考えられる。

これらのことは、「キャンセル」「ハッピー」の二語のデータのみから導き出したものであり、他の外来語による調査分析が必要であることはもちろんである。また、使用実態についても、新聞だけにとどまらない、調査分析が必要である。

5 使い分けの意識 —「サポート」を例に—

5.1 使う理由

4で見た「キャンセル」「ハッピー」についての調査は、単語を示して、そのイメージを尋ねるものであったが、別の側面からも分析を加えたい。具体的な場面を示して使う単語を選んでもらう方式で行った調査のデータを分析しよう¹。

問：友だちどうして話すとき、次のどの言葉を使いますか。

新しく農業を始めるには、地域の $\left\{ \begin{array}{l} \text{サポート} \\ \text{支援} \\ \text{手助け} \end{array} \right\}$ が必要です。

問：その言葉を使う理由は何ですか。A、Bの枠からそれぞれ1つ選んでください。

A枠 簡潔だから 分かりやすいから 正確だから 使い慣れているから
 B枠 新しい感じだから 知的な感じだから しゃれた感じだから
 やわらかい感じだから 格調高い感じだから

結果は、図11、図12、図13の通りである。

図11の通り、「手助け」を使う人が最も多く、「サポート」がこれに次ぐが、「支援」を使う人も少なくない。「サポート／支援／手助け」においては、外来語・漢語・和語、それぞれによく使われていると見ることができる。

しかし、その語を使う理由を質問した結果は、語によって大きく異なる結果が出た。まず、A枠の選択肢については、図12から分かるように、「手助け」「支援」を使う人では、「分かりやすいから」と回答した人が最も多いのに対して、「サポート」を使う人では、「使い慣れているから」と回答した人が最も多い。「分かりやすさ」という点では「手助け」「支援」、「使い慣れている」という点では「サポート」が支持されている。「手助け」「支援」には少なかった「簡潔だから」という回答が、「サポート」では多くなっている点も注目される。

また、図13において、「サポート」を使う人が選んだ回答で、「支援」「手助け」を使う人が選んだ回答よりも多いのは、「新しい感じだから」「しゃれた感じだから」の二つである。「知的な感じだから」を選ぶ人の比率は、「手助け」で少なく、「支援」「サポート」で多いが、「支援」と「サポート」を比較すると、「支援」の方に多い。

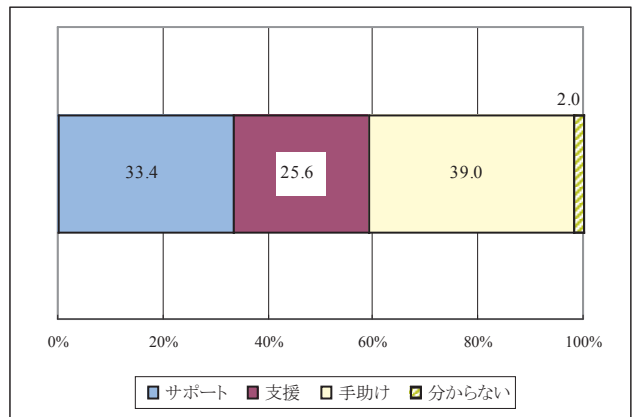


図11 友だちどうして話すときに使う言葉

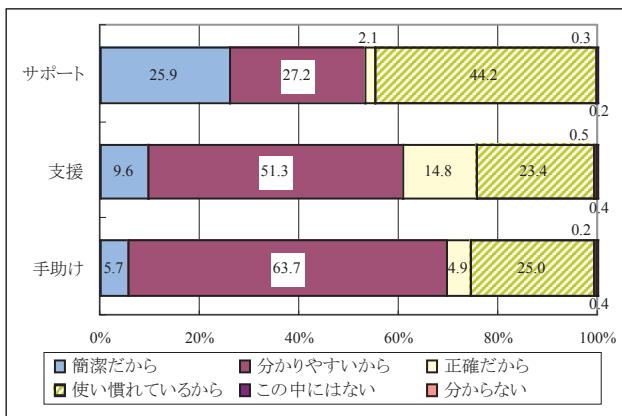


図12 その言葉を使う理由 (A枠)

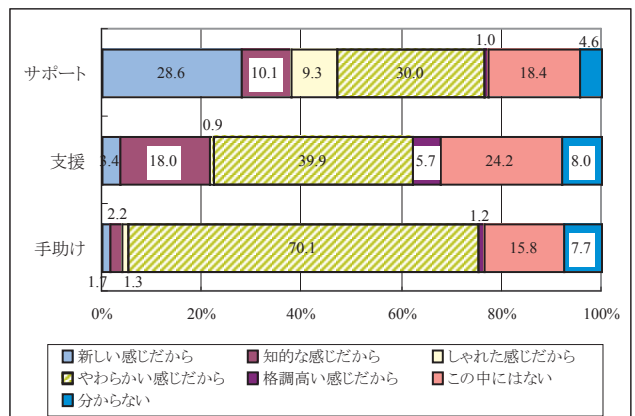


図13 その言葉を使う理由 (B枠)

以上をまとめると、「サポート」が使われる理由で、「支援」「手助け」の場合に比べて目立つのは、「使い慣れているから」「簡潔だから」「新しい感じだから」「しゃれた感じだから」という意識であり、中でも「使い慣れているから」という意識が特に高い。これが外来語「サポート」を使いたいと思う場合の、一般的な意識であると考えられよう。

5.2 相手による使い分け

「サポート／支援／手助け」について、「友だちどうして話すとき」「大勢の人の前で話すとき」「初めて会うお年寄りと話すとき」と、話し相手による言葉の選択意識を調べる質問も行った。

問：話す相手によって、使う言葉も変わってくると思います。ここでは、友だちどうして話すとき、大勢の人の前で話すとき、初対面のお年寄りと話すときの3つの場面で、あなたが使う言葉をお尋ねします。

問：〔カード〕まず、友だちどうして話すとき、次のどの言葉を使いますか。

問：〔カード〕では、大勢の人の前で話すときは、どの言葉を使いますか。

問：〔カード〕では、初めて会うお年寄りと話すときは、どの言葉を使いますか。

新しく農業を始めるには、地域の { サポート
支援
手助け } が必要です。

その結果は、図14の通りである。「初めて会うお年寄りと話すとき」は「手助け」が圧倒的に多く、「大勢の人の前で話すとき」は「支援」が多くなっている。友だちどうしの場合を通常のスタイルとして見た場合、初めて会うお年寄り、大勢の人の前といった、相手や場面に配慮する必要のある場合は、「手助け」や「支援」が、それぞれの語の価値を生かして選ばれるのだと考えることができる。「サポート」が選択される場合が最多となる相手はないが、「友だちどうして話すとき」には比較的多い。外来語「サポート」は、特別な配慮の必要な場面では選ばれず、友達どうしのような配慮の要らない場面で選ばれる語であると見ることができる。

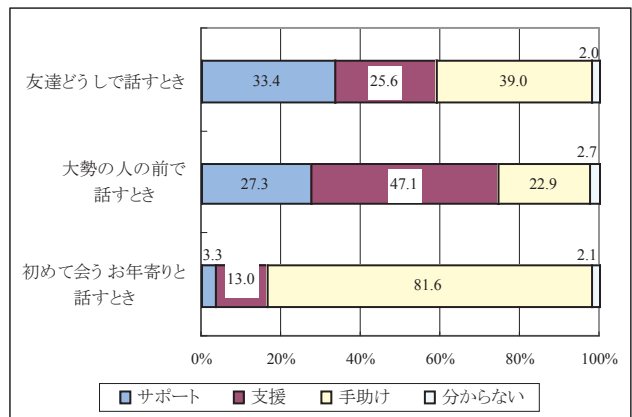


図14 相手による使い分け (全体)

次に、相手による使い分けを、年齢層別に見てみよう。図15～図18は、20歳代、30歳代、40歳代、50歳代に分けて示したものである。

全般に年齢が上がるほど「サポート」の比率が下がり、「手助け」の比率が上がっていくが、相手によって、三つの言葉を使い分ける傾向は、いずれの年齢層にも変わらずに存在していることが分かる。使い分けの意識は年齢差を越えて強くあり、その意識に基づいて選ばれる言葉が、年齢によって、変わるのである。

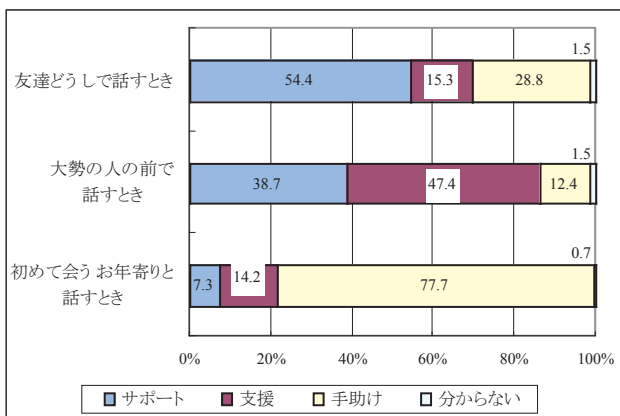


図15 相手による使い分け (20歳代)

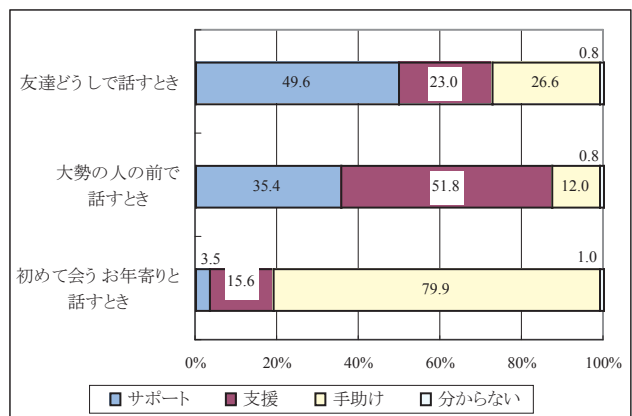


図16 相手による使い分け (30歳代)

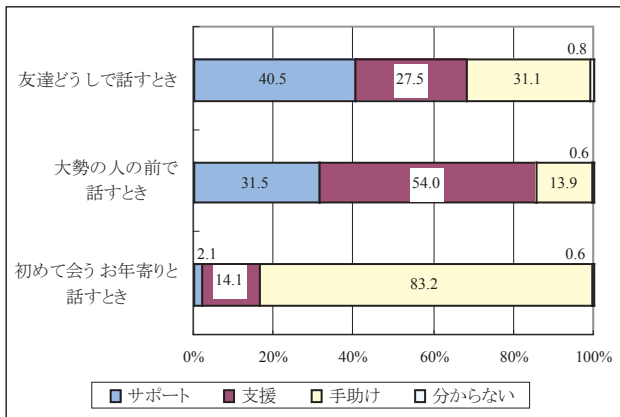


図17 相手による使い分け (40歳代)

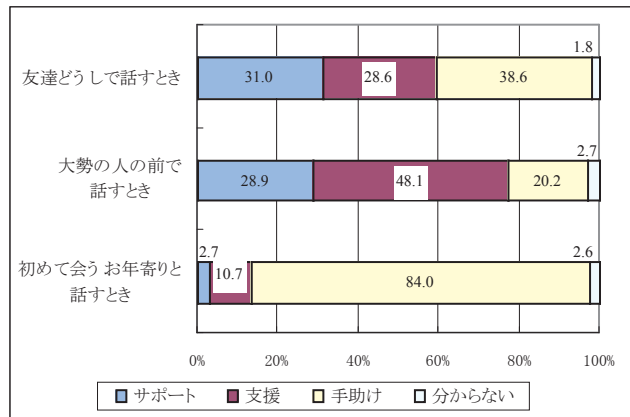


図18 相手による使い分け (50歳代)

5.3 まとめ

「サポート／支援／手助け」のデータをもとに述べてきたことをまとめると、次のようになる。

- 外来語「サポート」を使うのは、使い慣れている、簡潔、新しい感じ、しゃれた感じ、などという意識に基づいている。特に、使い慣れているという意識が強い。
- 相手によって「サポート」「支援」「手助け」を使い分ける意識は強い。年齢層別に見ても、その意識は不変であると考えられる。
- 外来語「サポート」は、友だちどうしのような、配慮を必要としない相手に対してよく使われる。特に、低い年齢層でその傾向が著しい。
- どの相手に対する場合でも、年齢層が低くなるほど、「サポート」を使う人が増加し、「手助け」を使う人が減少している。

これらのことは、「サポート／支援／手助け」のデータのみから導き出したことであるので、他の語についてのデータも踏まえて検討をする必要がある。

6 おわりに

本論文の最初に見たように、外来語の分かりやすさは、外来語の定着度との相関が大きい。定着度の高い外来語は分かりやすいと意識され、定着度の低い外来語は分かりにくいと意識される傾向が顕著である。このことは、「外来語」言い換え提案が、分かりにくい外来語の範囲を定める際に、外来語の定着度を指標として用いていることの妥当性を示すものと言えよう。

一方、定着を果たした外来語には、ほぼ同義の漢語や和語と共存しているものがある。そのような場合の、国民の外来語に対する意識と漢語・和語に対する意識との違い、それらの使い分けなどについて考察した。その結果、分かりやすさ以外の要素も絡み、それぞれの語に価値付けを行いつつ、使い分けを行っている実態が明らかになった。そこには、外来語であることによる共通の性質も見受けられるが、語による個別の背景事情も深く関わっている。特に、使いやすさという理由から多用される一群の外来語の存在が見えてきた。使いやすい外来語は、必ずしも分かりやすいものではなく、この種の外来語の多用が、分かりにくい外来語の氾濫の問題と関わっているのではないと思われる。

注

- 1 この質問項目についての調査結果は、国立国語研究所「外来語」委員会（2006）240-244 においても紹介した。ここでは、やや違う観点から結果を分析し、報告したい。

参考文献

国立国語研究所「外来語」委員会（2006）『分かりやすく伝える外来語言い換え手引き』ぎょうせい